

応用言語学 方法論b

宿題リスト
(2015年10～11月)

→各スライドの下にあるのは課題論文

※第1回の授業内容を踏まえています。

①心理動詞

• どうすればUTAHとの整合性が得られるか？

(i) 経験主目的語 (EO) 型 UTAH/卓越性保存仮説

Thunder frightens Max. 違反

Th Ex

(cf. 主題階層
Ex > Th)

(ii) 経験主主語 (ES) 型

Max fears thunder. 合致

Ex Th

→ 2~3人1組で回答 (~1頁) を作成 (※出典明示)。
来週報告。

→ Fillmore (1968)

②LCS

• 以下のうち3項目以上のLCSを書いてください。何人で解答しても構いません。

- 焼く vs. burn
- 食べる
- 怖がらす
- そびえる
- 漏れ聞く
- 青い
- ぼこぼこ

→ 影山 (2008)

③構文

• 次のa~cに共通する「構文」(公式)を抽出してください。類例も挙げてください。さらに他言語ではどうでしょう。

(i) a. 彼は週7日うどんを食べる

b. 1杯10万円のお酒

c. リッター100 kmのバイク

(ii) a. No music, no life.

b. Buy 1, get 1 free.

c. The more, the better.

→ 岩田 (2012: Ch. 1)

④使役移動構文

• 論文に載っていない英語動詞を用いた使役移動構文の用例を探してみてください。他言語に同様の構文はありますか？

<http://corpus.byu.edu/bnc/>

<http://corpus.byu.edu/coca/>

→ Goldberg (1995)

⑤形態構文 (1)

• 以下の語群に共通する「構文」を抽出してください。類例も挙げてください。

(i) 就活, 婚活, 恋活, 終活

(ii) ぶん殴る, 踏んづける, くつつける, すっぱ抜ける, 素っ飛ばす

(iii) タッチする '立つ', アンヨする '歩く', トントンする '叩く', ポイする '捨てる'

→ Booij (2010)

⑥形態構文(2)

- まだ指摘されていない形態構文を1つ以上提案してください。共著の場合は、人数分以上提案してください。

→ Tomasello (2009)

⑦オノマトペ動詞(1)

- 以下のaとbについて、日本語の例を挙げ、それぞれのLCSを書いてください。
 - a. 影山(2005)の7つのLCSのどれにも合わないオノマトペ動詞
 - b. 日本語では作れないオノマトペ動詞
- Dropboxにオノマトペ動詞のリストがありますので、適宜ご参照ください。

→ 影山 (2005)

⑧オノマトペ動詞(2)

- 日本語以外の言語について、オノマトペ動詞の意味分布がどうなっているかを記述してください。以下の観点がヒントとなります：
 - 擬音語(声, 音), 擬態語(移動, 視覚パタン, 手触り), 擬情語(身体感覚, 感情)
 - 非使役, 再帰, 働きかけ, 使役状態変化
- 2~3人で1言語

→ なし(ゲストスピーカー)

⑨オノマトペ動詞(3)

- 影山(2005)(投射説)と辻村(2009)(構文説)それぞれが得意な点と不得意な点をまとめてください。

→ 辻村 (2009)

文献

- Booij, Geert. 2010. Construction Morphology. *Language and Linguistics Compass* 3, 1: 1-13.
- Fillmore, Charles J. 1968. The case for case. In Bach and Harms, eds., *Universals in Linguistic Theory*, 1-88. New York: Holt, Rinehart, and Winston.
- Goldberg, Adele E. 1995. *Constructions: A Construction Grammar Approach to Argument Structure*. Chicago: University of Chicago Press.
- 岩田彰志. 2012. 『英語の仕組みと文法のからくり: 語彙・構文アプローチ』開拓社.
- 影山太郎. 2005. 「擬態語動詞の語彙概念構造」第2回中日理論言語学会研究会資料, 2005/4/24.
- 影山太郎. 2008. 「語彙概念構造(LCS)入門」影山太郎(編)『レキシコンフォーラム』4, 239-264. ひつじ書房.
- Tomasello, Michael. 2009. The usage-based theory of language acquisition. In Edith L. Bavin, ed., *The Cambridge Handbook of Child Language*, 69-87. Cambridge: Cambridge University Press.
- 辻村成津子. 2009. 「オノマトペ動詞の意味・項構造の一考察」*Proceedings of the Annual Meeting of the Kansai Linguistic Society* 29, 334-343.